



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 33

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
上高瀬駅(現、高瀬駅)
昭和30(1955)年代
高瀬町

大正2(1913)年に讃岐鉄道の多度津・観音寺間が開通すると同時に、上高瀬駅も開業する。昭和34(1959)年に現在の鉄筋コンクリートの駅舎に改築され、駅名も高瀬駅に改名された。当時は、県下でも鉄筋コンクリートの駅舎は珍しかったという。

「思い出の1ページ」

「当時の上高瀬駅舎では20人以上の駅員が働いていたんですよ」と話すのは、国鉄職員として昭和36年まで上高瀬駅(現高瀬駅)で働いていた松野岩雄さん(90)。

「駅の正面の入り口から中へ入ると、中央に改札口があり、左手が切符売り場、右手が待合所になっていました。駅員の仕事は改札係のほかに、切符を売り出す出札係や汽車に信号を行うポイント係などがありました。この当時は、ほとんどが手作業で大変でしたよ。また、職員の半分は女性でしたが、ほとんどの仕事をこなしていましたね」と当時を振り返ります。

「当時は写真にあるような車はまだ少なかったですね。バスはありましたが、大量のヒトとモノを運ぶ手段として汽車は最高の交通機関でした。駅の西隣には日本通運があって、大量の麦や米を貨物列車に積み込んで出荷していました。また、今の百十四銀行が建っている場所が昔の警察署でした。そういえば、

詫間から毎日警察署に働きに来ていたおばさんがいたなあ」と懐かしそうに話してくれました。当時の楽しかった思い出を聞くと「夏になると駅前の広場にやぐらを組み、提灯かざりをして盆踊りをしました。娯楽が少ない時代だったから盆踊りが一番の楽しみでしたよ」と教えてくれました。

機械化が進んだ高瀬駅も、ひと昔前はたくさんの方々が常駐するとともにぎやかな駅だったことを伺い知ることができました。



編集 後記

最近、何もない平たんなどころで、よくつまずきます。片脚立ちで靴下もはきにくいし、階段も手すりがあった方がいい。あれ？まだ40代なのに、7つのロコチェックのうち3つも当てはまっている！これはまずい。運動しないと…。皆さんも、自分のためにチェックして、若いうちから「貯筋」に励みましょう。